

平成12年9月5日
原子力安全対策課
(12-55)
<16時00分記者発表>

大飯1号機の定期検査状況について (燃料集合体漏えい検査結果について)

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

大飯発電所1号機（加圧水型軽水炉；定格出力117.5万kW）は、定格出力運転中の平成12年5月19日、定期的実施している1次冷却材中の放射能濃度測定の結果、よう素131の濃度が通常値（0.6～0.8Bq/cm³）と比べわずかに上昇（7.8Bq/cm³）しているのが認められたため、監視を強化して運転を継続し、7月31日から第16回定期検査を開始した。

[平成12年6月2日、7月26日 発表済]

その後、燃料集合体全数（193体）について、漏えい検査を実施したところ、1体の燃料集合体に漏えいが確認された。

8月13日に126体目の燃料取り出し作業中に発生した不具合については、8月23日に燃料つかみ装置と燃料集合体の干渉が解除されたことから、装置と燃料集合体の健全性を確認した上で、8月29日、残りの68体の燃料取り出し作業を再開した。

[平成12年8月23日 一部発表済]

[燃料集合体調査結果]

- ・漏えいが認められた1体の燃料集合体について、水中カメラによる外観検査を実施したところ、特に異常は認められなかった。
- ・超音波により漏えい燃料棒の特定を行なった結果、漏えい燃料棒1本が確認された。
- ・当該燃料棒について、ファイバースコープを用いて外観観察を実施した結果、有意な傷等は認められなかった。

これらのことから、今回の漏えいは、当該燃料棒に微小孔（ピンホール）が発生したものと推定された。

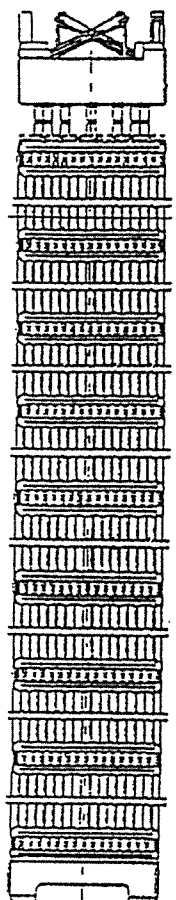
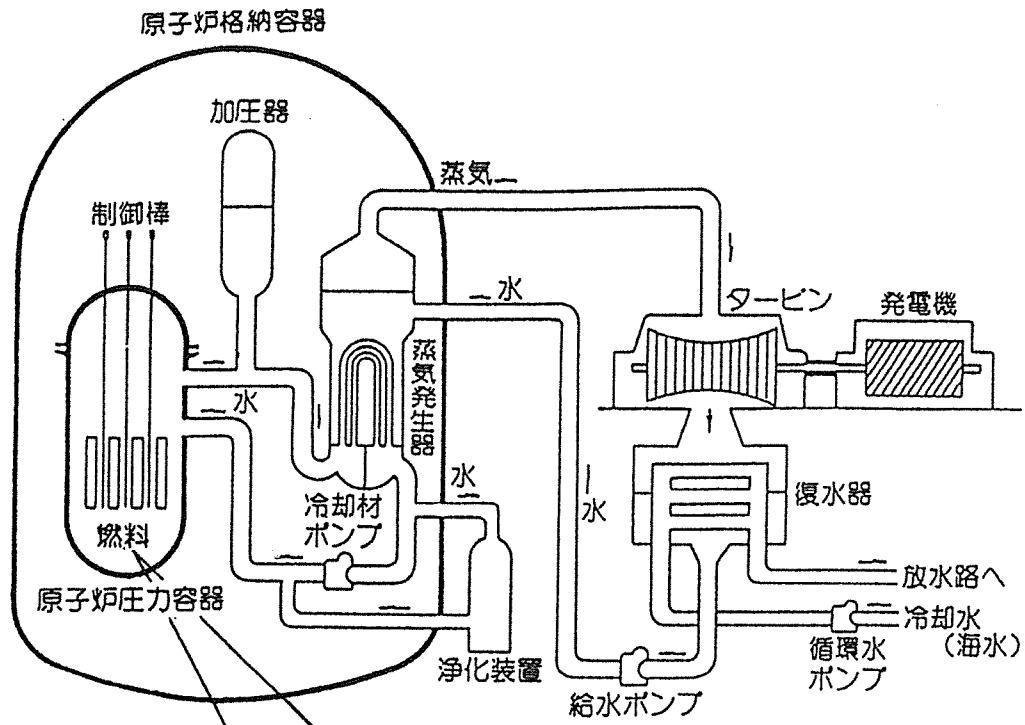
今後、当該燃料集合体は再使用しないこととしている。

この事象による環境への放射能の影響はない。

(通商産業省によるINESの暫定評価)

基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	0-	0-

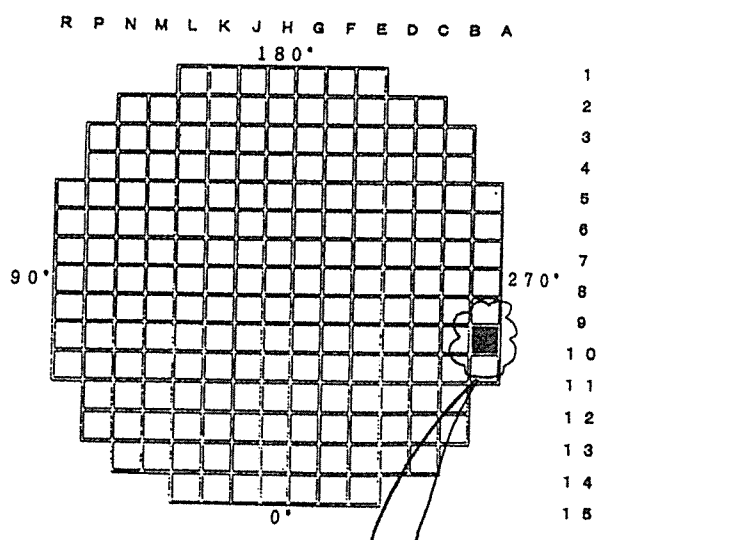
漏えい燃料集合体装荷位置



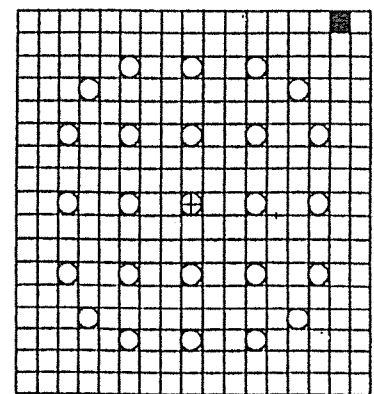
17×17型燃料集合体（B型）

燃料集合体の仕様	
燃料タイプ:	17×17型
全長:	約4 m
全幅:	約20 cm
支持格子数:	9個
ウラン重量:	約440 kg
燃料棒本数:	264本
被覆管材質:	ジルカロイ-4
被覆管外径:	約10 mm
被覆管肉厚:	約0.6 mm

炉心配置図



■：漏えい燃料集合体



- 燃料棒
- 制御棒案内シムル
- ⊕ 炉内計装用案内シムル
- 漏えい燃料棒